こどもつなぐプロジェクト

大阪府こども食堂ネットワーク
西山朋代・上須道徳

こども食堂・学校架け橋プロジェクト
地域×学校　協働オンラインセミナー

2025年5月12日

この事業を始めようと思ったきっかけ

【大阪府こども食堂ネットワークについて】

- 2023年3月に大阪大学の事業として発足
  - *府域のこども食堂を支援する中間支援組織と連携・対話を推進*
    （情報・課題共有、学習の場、地域ネットワーク創設支援、調査研究、学生参加）
  - *大阪大学が事務局を担当*
    ネットワーク活動を地域参画・学生の教育の場としても活用
  - *2024年度の目標：学校・地域との協働を促進*

【学校架け橋プロジェクトの企画】

- ①こどもの声を聴く・届ける、②田んぼ体験 ～食と生命～」

  →学生が企画立案！

- ネットワークに参画する中間支援組織や学校と連携し、プレ交流企画を実施、地域や学校との協働の基盤を作る

事業①こどもの声を聴く・届ける：学校ヒアリング

【概要】

- 豊中市とともに大学生が豊中市内の学校を訪問、中学生および高校生と子どもの権利や地域の居場所などについて対話を行った。また、各学校の担当の先生方と意見交換を行った。

■ 豊中市こども政策課の方とこどもの声を聴く・伝える方法についての対話を行った。子どもの権利や大人についてちょうどこどもと大人の間にいる大学生の考えに基づき、こどもの声を聴く・伝える方法の作り方を検討した。

【詳細】

- 実施日時・場所：2024年12月3日（豊中市立第3中学校、2024年12月17日（大阪府立桜塚高校）、12月18日（大阪府立刀根山高校）、12月20日（豊中市立第十三中学校）、2025年1月10日大阪府立千里星雲高校）
- 協働先：豊中市こども政策課、豊中市内各学校、大阪大学学生（6名）

学校ヒアリングの様子（2024年12月3日）

事業の実施により見られた様子・変化

＜こどもの声を聞く・伝える＞

- ヒアリングが進むにつれて、こども達の発言も増えていくことがわかった。
- 子どもたちは、大人が自分たちの話に耳を傾けていないと考えていることがわかった。
- 子どもたちの本心や本当の声を聴くためには、大人と子どもたちの間に信頼関係が必要である。
- 子どもたちの考えていることは、必ずしもすぐに言語化できるわけではない。ゲームやアート（絵画、演劇）などを通じて、さまざまな形で表現してもらうことも考える必要がある、との結論に至った。

事業②　地域交流・お野菜収穫イベント

【概要】

- 体験格差や地域活性化を図るべく、自然体験を通じた交流イベントを実施した。東大阪市（都市部）のこども食堂から8組24名の親子、能勢町（中山間地域）のこども食堂から4組12名の親子、また大阪府ネットから大学生が4名参加し、ニンジンの収穫、おにぎりづくり、豚汁ランチ、節分の豆まきを楽しんだ。

【詳細】

- 実施日時：2025年2月2日
- 実施場所：能勢町須美ふぁーむ
- 協働先：能勢町役場福祉課・産業振興課（町内のこども食堂）、東大阪市社会福祉協議会（市内こども食堂）、大阪大学学生（5名）

50m
ポリラップ

事業の実施により見られた様子・変化

＜地域交流：お野菜収穫イベント＞

- 「野菜を育てることの苦労について直接お話を伺い、食べ物を大事にすることを学んだ」、「ふかふかの土を踏んで気持ちよかった」、「おにぎりと豚汁がおいしくていつもよりたくさん食べた」などの感想が寄せられ、自然体験や交流の機会を提供することも大きな意義があると感じた。
- イベント終了後協働いただいた地域の方々や学生たちも笑顔でいっぱいだった。

これからの展開

- 豊中市・池田市、市域の中学校・こども食堂、十津川村教育委員会（十津川第一小学校、十津川第二小学校）との協働により、ワークショップや学校訪問を通じて、子どもたちの声を可視化する。
- 市の職員、学校の教員、大学関係者による、子どもの権利や子どもの声を聞くことについての勉強会を定期的に開催する。
- 豊中市第十三中学校のキャリア教育に協力する形で、学生と中学生との対話の場を設ける（5月27日豊中キャンパスにて実施）。
- 能勢町役場および小学校との協働により、都市部と中山間地域の親子が自然体験を通じて交流するイベントを実施する。